部分的に抜き取られていることから２回の埋葬が考えられます。石室からは須恵器、土師器、馬具、鉄鏃、鉄鎌、金環、銀環、玉などの副葬品が多量に出土しました。そのなかには装飾壺の装飾部分で騎乗する男性、座っている女性、馬、犬等を表現した珍しいものも出土しました。

西側の石室の玄室は奥壁幅 1.9m、玄門部での幅 2.0m、長さ 3.9m、高さ 2.6m、羨道は幅 1.4m、長さ 5.7m、高さ 1.9m を測ります。床面に棺台が３ヶ所にみとめられることから、３回の埋葬が考えられています。

このほかに現存する古墳は、マンションの管理地や近鉄奈良線周辺などに６基残っています。

神武天皇腰掛石

石切上の社の南側の谷を登ること約 15 分、俗に石切奥之院弁天滝と呼ばれる真言宗の金剛寺内にあります。石は長さ 3.7m、幅 1.1m の三角形の巨石で、神武天皇が東征の時、腰を掛けられた石と伝えています。

腰掛石

生駒山と生駒山経塚

大阪府と奈良県を画する生駒山地は古代より神聖な山として仰がれてきました。記録には膽駒山、射駒山、生駒山、生馬大山などと記され、その意味するところは「駒の山」で、古代には山麓に牧馬があって、馬形の山と考えられていたようです。また、山は神の山として、物部氏の祖神の天下り鎮まりたまう山であったといわれています。

辻子谷を通り興法寺を経て生駒山上から生駒市側の宝山寺へ通じる生駒越の道は、山上駐車場で切られていますが、この北側に経塚があります。経塚の石仏は高さ２mの釈迦如来で、安永（あんえい）６年（1777）の銘があります。荒廃していましたが昭和 53 年に復元されました。

小楠公首塚（しょうなんこうくびつか）と山上神社跡

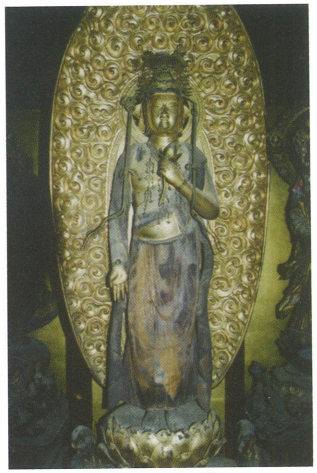
首塚は近鉄奈良線額田（ぬかた）駅から長尾の滝に登る道を行き、初めての橋の手前を北へ曲がり、細い道を行くと突き当たりの木立内にあります。小楠公（楠木正行（くすのきまさつら））の首を埋めたと伝えられる石龕（せきがん）（石の厨子（ずし））があることから、大正 13 年（1924）に地元の人たちによって顕彰碑が建てられました。山上神社は石の社標と鳥居が残っているだけで、明治５年 (1872) に枚岡神社に合祀されました。

首塚

重願寺と不動寺跡

近鉄奈良線額田駅の東方、枚岡公園の北に重願寺があります。本誓山と号し、もと大阪の谷町にあり、昭和 37 年に墓地とともに現在地へ移されてきた浄土宗の寺

院です。文禄（ぶんろく）年間（1592 ～ 1596）岸誉上人の開基です。本尊の木造阿弥陀如来坐像は像高 140㎝の定印を結ぶ藤原時代の作です。多宝塔にまつられている聖観音立像は像高 105㎝で相当補修はあるものの藤原時代末期の様式を残し、共に市の文化財に指定されています。


聖観音立像

重願寺のあるところは、もと真言宗不動寺の跡で、額田の高内皆人の創建した寺と伝えています。別名を長尾寺といい、慈雲尊者ゆかりの寺でしたが、明治６年 (1873) に廃寺となりました。

境内には夜泣き石があり、不動寺で前関白近衛前久が詠んだ和歌についての慈雲尊者の説文が刻まれています。昔この石を他所に移した所、毎夜「帰りたい」と泣く声がすることから夜泣き石と呼ばれています。

歌碑（夜泣き石）

政家住宅

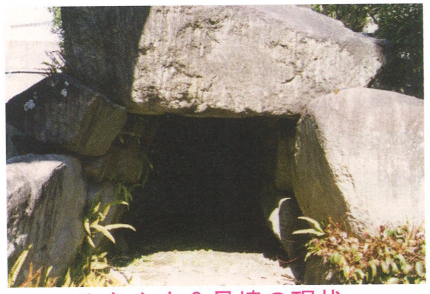
明治時代中期の住宅の好例として、市の民俗文化財に指定されています。

主屋は桁行 7.5 間、梁行は居室部分 4.5 間、身舎の梁間 3.5 間の整形四間取りで、江戸期より進んだ居室空間の多様化がみとめられます。

政家住宅

みかん山古墳群

近鉄奈良線枚岡駅と額田駅の中間、枚岡公園へ通じる道の両側の標高 80 ～ 120 m付近にあります。この付近には多くの古墳があったと伝えられていますが、現在は横穴式石室を持つ２基が残されているのみです。３号墳は宅地内に残されています。封土は失われて羨道の一部もなく、玄室がかろうじて残されています。玄室の幅 1.9 m、長さ 5.6 m、高さ 2.6 m、羨道の幅は 1.8 mを測り、元はかなり大きな横穴式石室であったと思われます。４号墳は３号墳の西約 30m の住宅街の一角にあります。羨道の前半部を失っていますが、玄室が完全な形で残っています。昭和 36 年に行われた簡単な調査で、凝灰岩の破片の散乱から石棺の存在、鎌倉時代の羽釜や瓦器椀から中世に石室が再


みかん山３号墳の現状